令和5年度　多摩市立聖ヶ丘中学校　授業改善推進プラン　教科名　英語

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基本的な語や文法事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して習得させる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチなどで表現する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	・定期考査の結果から、「文法問題」の正答率が低く、語彙や文法などの基礎的な学力が知識として身に付いていない様子が見られる。ア ・定期考査の結果から、「英作文」の正答率が低く、目的・場面・状況に合わせた適切な英文で表現することに課題が見られる。イ	・文法事項について、ワークに解答を書き込むだけでなく、重要事項や間違えやすいポイントなども併せて書き込ませることで、文法が身に付くように学習方法を自分なりに工夫させる。ア ・日常的な話題について場面や状況を設定し、目的に応じた適切な表現を用いてスピーチさせる機会を設ける。音読練習を増やし、基礎学力をつける。イ	・常時。 ・単元末	・1月実施の「語順並べ替え」テストでは92%の生徒が半分以上の点数をとり、文法のしくみを理解するという基礎的な力をつけることができた。 ・第3回定期考査の英作文ではスペルミスなどの間違いはあるものの白紙答案はほとんどなかったので、英語で伝えたいことを表現しようとする力をつけることができた。
第2学年	・定期考査の結果から、「熟語」を問う問題の正答率が低く、2語以上が並んで意味をもつ言葉への理解に課題がある。ア ・日常的に簡単な英語を話す力は身についてきているが、それを文字に起こすことに課題が見られる。イ	・熟語を用いた表現を授業中に指導したり、その言葉を使った例文を作らせるようにし、反復練習を授業内で取り入れていく。ア ・リテリングを取り入れ、言葉にしたことや聞こえてきたことを文字にする練習を取り入れ、聞くことから書くことへの連動した力を育む。	常時 常時	・週に1回の単語テストを行った結果、単語・熟語共に、意味や使い方を理解し、正答することができた生徒が増えた。 ・帯活動でのリスニングにてリテリングの活動を取り入れたところ、聞くこととそれを文字として表現することへの抵抗がなく、活動できる生徒が増えた。
第3学年	・7月実施のGTECの結果から、「読むこと」の正答率が低く、長文を読んで理解することに課題が見られる。ア ・7月実施のGTECでは、「書くこと」の項目で正答率が高かった。自分の考えを英語で表現する力がついてきている。イ	・教科書本文の内容を把握する際、必要な情報を読み取り、適切に答える技能を身につけさせる。長文読解の問題演習を繰り返し行うことで、「読むこと」に対する抵抗感を軽減する。ア ・単元の終わりに、自分の考えや感想をロイロノートに記入させ、意見交換を行うことで「書くこと」を習慣づける。イ	・常時 ・単元末	・長文読解の問題演習に重点的に取り組んだ結果、入試問題演習の際に抵抗なく読むことができる生徒が増えた。 ・ロイロノートを効果的に活用し、個別に全員の英文のチェックを実施し、基礎的な内容で書く習慣をつけることができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：英語でのプレゼンテーションや表現活動をALTの時間を中心に設定する。その際にタブレットを使用し、原稿をロイロノートで提出させたり、発表時に大型提示装置で投影したりすることで、より伝わりやすい発表を目指す。【重点：個別・協働】 2年：英語でのスピーチ活動を多く設定し、そのスピーチの補助資料等をタブレットで作成する。また、文法の添削等もロイロノートを活用し、行う。【重点：個別・協働】 3年：デジタル教科書、ロイロノートを活用し、個別の音読チェック、Writing 課題の添削を行う。単元末に英語による意見交換を行う。【重点：個別・協働】	1年：定期考査後に、学習内容や学習方法について観点別に自己分析を記入させ、今後の学習に生かす。 2年：生徒自身による要点整理と達成状況の確認、次回までの学習調整のための振り返りを書かせる。 3年：生徒自身による要点整理と達成状況の確認、次回までの学習調整のための振り返りを書かせる。